

トマト黄化葉巻病抵抗性品種の雨よけ栽培での品種特性

海保富士男・野口 貴・沼尻勝人・木下沙也佳
(園芸技術科)

【要 約】トマト黄化葉巻病抵抗性6品種を「CF 桃太郎ファイト」と比較したところ、いずれの品種も1～2段果房で糖度がやや低くなったが、裂果が少なく可販果率が高く、収量が多い。発病地の対策として、これら抵抗性6品種を導入することは有効である。

【目 的】

トマト黄化葉巻病抵抗性品種は、発表当初には問題があり、なかなか現地に普及しなかった。その後、問題を解消した新しい抵抗性品種が次々と育成されている。抵抗性品種の品種特性についての情報提供の要望があった。そこで、今回は、最近の抵抗性品種について雨よけ栽培での生育特性、果実品質や収量性を明らかにする。

【方 法】

黄化葉巻病抵抗性の「TY 桃太郎ピース」以下5品種および対照の「CF 桃太郎ファイト」を2018年4月11日にハウス内の幅100cmのベッドに株間40cm、2条でポット苗を定植した。1区6株の2連性とし、8段摘心で栽培し生育、収量および果実特性の調査を行った。

【成果の概要】

1. 抵抗性品種の生育をみると、草丈は「秀福」を除き「ファイト」と同程度かやや小さかったが、短節間の品種はなかった(表1)。茎径は、全体に「ファイト」と大差なく、極単に草勢が強い品種、弱い品種はなく、草勢は概ね「ファイト」程度であった。
2. 抵抗性品種の抵収穫開始日は、「麗旬」が早く、「ファイト」より6日早かった。他の品種は同程度か2～3日早かった(表1)。8段目果房までの収量をみると、総収量および可販果収量は、「ファイト」と比べいずれの品種も多かった。そのなかでも「ピース、秀福」の可販果収量は多く、4kg/株以上となった(表2、図1)。
3. 収穫果数は、「ファイト」と比べ「ピース、麗旬、有彩014」でやや多く、「ホープ、有彩017、秀福」で同程度だった(表2)。可販率は、いずれの品種も「ファイト」より高く、とくに「麗旬、秀福」で高かった。また、平均1果重は、「麗旬」を除き「ファイト」より大きく、なかでも「ホープ、有彩014、有彩017」で大きかった。
4. 下物果の発生は、いずれの品種も「ファイト」より少なく、とくに「秀福」で少なかった(図2)。また、抵抗性品種では裂果の発生が「ファイト」より少なかった。
5. 果形は、「ファイト」と比べ「ピース、有彩014、有彩017」で扁平、「麗旬」で腰高であった。硬度は全体に高く、とくに「秀福」で高かった(表2)。酸度は、「麗旬」でやや高いほか「ファイト」と同程度かやや低く、「秀福」で低かった。糖度は、「ファイト」に比べ下段果房では低く、中段果房ではその差が小さくなり、上段では差がなくなった。しかし、「ファイト」を上回る品種はなく、そのなかで「麗旬」の糖度が比較的高かった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

他の作型(抑制栽培)やさらに新しい品種について品種特性を明らかにしていく。

表1 トマト黄化葉巻病抵抗性品種の生育特性

品種	(種苗会社) ^a	収穫開始 ^b (月/日)	草丈(cm)		茎径 ^e (mm)			
			1段 ^c	先端 ^d	1段	3段	5段	7段
TY桃太郎ピース	(タ)	6/5	45.0	233	15.9	20.0	17.5	15.2
TY桃太郎ホープ	(タ)	6/2	44.1	215	15.4	19.1	17.9	14.1
麗旬	(サ)	5/29	41.8	224	14.8	19.1	20.1	19.2
有彩014	(朝)	6/2	41.8	222	14.5	18.1	17.5	14.1
有彩017	(朝)	6/1	42.6	231	14.4	20.3	19.3	17.1
秀福	(カ)	6/5	49.1	244	15.0	19.5	17.3	14.9
CF桃太郎ファイト (対照)	(タ)	6/4	43.6	228	15.9	19.3	17.6	16.2

a) 種苗会社凡例 (タ):タキイ種苗, (サ):サカタのタネ, (朝):朝日工業, (カ):カネコ種苗
 b) 各品種の半数以上の株で収穫開始した日
 c) 地際から1段果房までの高さ
 d) 地際から摘心位置(8段果房上2葉残し)までの高さ
 e) 茎径:果房直下の茎径

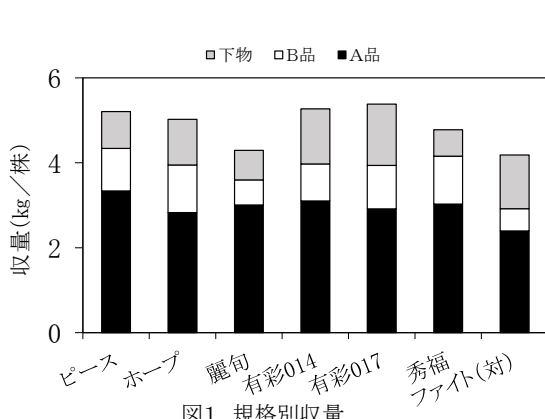


図1 規格別収量

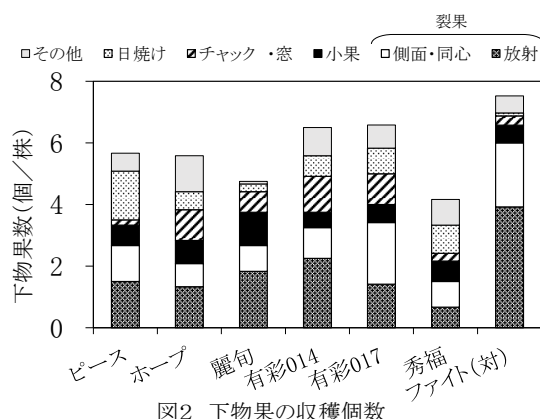


図2 下物果の収穫個数

表2 トマト黄化葉巻病抵抗性品種の収穫果数, 収量および1果重

品種	総収穫果			可販果 ^a (A品+B品)			
	果数 (個/株)	重量 (g/株)	1果重 (g)	果数 (個/株)	重量 (g/株)	1果重 (g)	可販率 (%)
TY桃太郎ピース	27.7	5207	188	21.8	4337	199	78.6
TY桃太郎ホープ	25.1	5024	200	19.3	3948	205	76.7
麗旬	28.1	4295	153	22.8	3598	158	81.0
有彩014	26.2	5270	201	19.4	3973	205	74.2
有彩017	25.2	5381	214	18.6	3937	212	73.8
秀福	24.5	4777	195	20.1	4155	207	82.0
CF桃太郎ファイト (対照)	24.9	4183	168	17.0	2920	172	68.4

a) 可販果とはA品(市場出荷が可能)とB品(軽微な不良果だが直売可能と判断)を合わせたもの

表3 トマト黄化葉巻病抵抗性品種の果形比, 硬度, 酸度および果房別糖度(1~7段)

品種	果実特性				果房別糖度(Brix%)			
	果径比 ^a	硬度 ^b (kg)	酸度 (%)	糖酸比	下段 (1~2段)	中段 (3~4段)	上段 (5~7段)	平均
TY桃太郎ピース	0.80	0.57	0.76	6.5	5.2	4.8	4.8	4.9
TY桃太郎ホープ	0.87	0.58	0.72	6.9	5.1	4.9	4.9	5.0
麗旬	0.89	0.56	0.89	5.9	5.5	5.2	5.1	5.3
有彩014	0.81	0.56	0.84	6.0	5.3	4.9	4.9	5.0
有彩017	0.80	0.57	0.76	6.6	5.3	4.8	4.9	5.0
秀福	0.86	0.60	0.59	8.6	5.1	5.0	5.0	5.1
CF桃太郎ファイト (対照)	0.86	0.55	0.83	6.6	5.9	5.4	5.1	5.4

a) 果径比:果実の縦径/横径

b) 果実硬度計(円錐型Φ12mmプランジャー)の陥入抵抗値